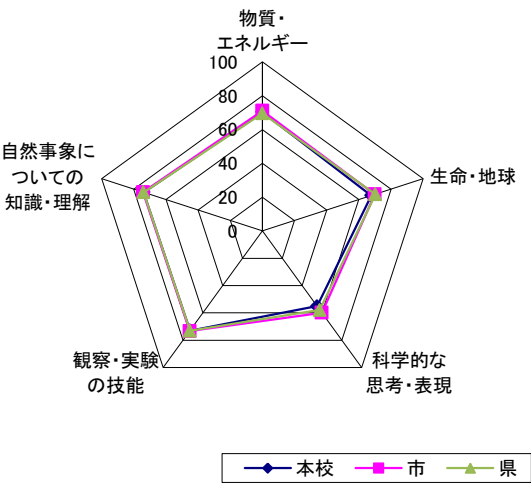


宇都宮市立横川西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	70.4	71.1	69.6
	生命・地球	67.8	70.0	70.3
観点	科学的な思考・表現	55.1	59.8	57.8
	観察・実験の技能	72.9	73.2	73.0
	自然事象についての知識・理解	73.9	74.3	74.0



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「風の強さによって物の動く様子が違う」の正答率は92、9%で、市平均を4、9ポイント上回り、県平均も5、2ポイント上回った。 ○「ソケットを使わない場合の豆電球の明かりのつけ方」の正答率は84、7%で、市平均を4、5ポイント上回り、県平均も6、8ポイント上回った。 ○「磁石の力は、磁石につかない物があってもはたらくことを、日常生活と関連付けて考える」の正答率は、65、9%で、市平均を3ポイント上回り、県平均も6、6ポイント上回った。 ●「実験の結果から、車を目的とする距離まで移動させるのに必要なゴムの伸びを推測する」の正答率は72、9%で、市平均を10、4ポイント下回り、県平均を9、7ポイント下回った。 ●「10円玉(銅)の性質を利用して仲間分けすることができ、また、その理由を説明」の正答率は14、1%で、市平均を9、6ポイント下回り、県平均も9、4ポイント下回った。	・観察や実験では、目的意識や見通しをもって行い、観察実験結果を図や文でまとめることなどの言語活動を十分取り入れ、科学的な思考力や表現力の育成を目指した指導を続けていく。
生命・地球	○「虫眼鏡を正しく使う」の正答率は54、1%で、市平均を4、9ポイント上回り、県平均も5、0ポイント上回った。 ●「昆虫の成虫の足の様子を表す」の正答率は75、3%で、市平均を5、2ポイント下回り、県平均も7、8ポイント下回った。 ●「昆虫が特定の場所にいる理由」の正答率は、38、8%で、11、4ポイント下回り、県平均を10、8ポイント下回った。 ●「温度計の目盛りを正しく読む」の正答率は56、5%で、市平均を8、9ポイント下回り、県平均を13、0ポイント下回った。	・虫眼鏡や方位磁針、温度計などの道具の使い方においては、体験を通して定着を図りたい。 ・観察したことをノートや記録カードなどに絵図や文で記録させたり、観察する前は、観察する観点を与え、継続観察、記録していくことを引き続き指導していきたい。 ・昆虫や植物、太陽や地面の様子などは、日常生活の中で意図的に触れることにより、自然事象への興味関心を高めていきたい。